

平成 24 年度第 2 回協働クロストーク！開催報告

- 1 日 時** 平成 25 年 3 月 16 日（土） 14：00～17：30
- 2 場 所** 社会福社会館 4 階 会議室
- 3 テーマ** 文化財をもっと身近に感じるには
- 4 参加者** 36 名（市民側 17 人、行政側 19 人。男性 25 人、女性 11 人。）
NPO 法人長崎の風 黒田雄彦、田崎徹、内藤康利
長崎路上観察学会アルキメデス 森草一郎、林すみこ
共存文化仲間の会 緒方源信
ながさき双六の会 坂口豊
丸山ぶらぶら散策倶楽部 山口広助
長崎ラビッシュネット 松本敏子
うんすんカルタ長崎ロバイ 飯谷敬子
新現役の会ながさきセンター 井手達夫
モダン・フォト・ナガサキ 坂井恵子、一瀬恵介
NPO 法人 NPO 九州 芹田博、宮田智史
「エコ名人を探せ！」塾 佐藤恵
ジュニアリーダー空 富川憲四郎
文化財課
赤崎敏博、神近幸司、扇浦正義、杉町滋、宮下雅史、高崎裕見子、
北岡弘恵、佐々田学、入江清佳、倉田法子
地域コミュニティ推進室 橋田修平
総合企画室 山口伸一
長崎県県民協働課 木下和人
秘書課 小森優子
市民協働推進室
松本憲明、原田宏子、岡本勇一、生駒太一、吉岡利章
- 5 狙い・目標** (1) 現在実施している文化財の普及啓発事業について
① 市民ニーズに合っているのか
② もっとほかの手法はないのか などのアイデアフラッシュ
(2) 参加者同士の新たなつながりづくり

6 当日の流れ

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 14:00~14:20 | オープニング |
| 14:20~14:30 | 各グループ自己紹介（所属、名前、春といえば） |
| 14:30~14:50 | 文化財課から説明+コーディネーターからの質疑 |
| 14:50~15:20 | 各グループでの意見交換 ① 事業の説明を聞いて感じたこと |
| 15:20~15:30 | 各グループで出た意見の共有 |
| 15:30~15:40 | 休憩 |
| 15:40~16:40 | 各グループでワーク ①新企画を作ろう！ |
| 16:40~16:55 | ポスターセッション 各グループの企画案を見て回る |
| 16:55~17:05 | コーディネーター解説、ふりかえり |
| 17:05~17:20 | 各グループでのふりかえり（参加してどうだったか） |
| 17:20~17:30 | クロージング |

7 各グループの意見交換で出た主な意見

(1) 新たな企画アイデア

- 子どもの頃に文化財に親しむ機会を作る。
⇒ 学校に学芸員を派遣。夏休みの自由研究とコラボ。教科書を検証。すべての文化財を回るプログラムを作る
- 文化財の範囲を広げる。未指定、料理、電車、街道、廃墟、町屋なども
- 人を集めるのではなく、人の集まる場所へ行く。
- 文化財を点ではなく、線でつなぐ。ストーリーを持って。
- ネーミング。いきなり文化財と言われてもピンとこない
- 体験メニューを入れたもの
- 「へ～すごい」と思わせる切り口
- 文化財と何かを組み合わせ活用（カフェ、ショップ）
- 若者限定企画（大学生）
- 有料にして何かお土産を配布
- ルートを参加者に決めさせてもおもしろい
- 文化財=カッコイイという見方を教える
- バックヤードツアー
- 面白さを伝える人が大事
- 文化財自体に関心がない人へのアピール、入り口が必要

(2) 既存事業について

- PRをもっと工夫（ターゲットに応じてFacebook、ブログ、ツイッター）
- リサーチ不足
- ターゲットに合うような開催時間・場所・曜日を設定
- “やっていること”に満足しているのでは
- 事業のターゲットに合うような市民と一緒に考えてみては。

(3) 文化財全般について

- 国宝が3つもあるすごさをもっと告知。
- 文化財を誇れるようになれば。
- 文化財の数の多さにビックリ
- TVなどに取り上げられなければ、知る人ぞ知るになっている

8 各グループで作成した新企画

1班一①

| | | | |
|-----|----------------|----------|--|
| 事業名 | 長崎の文化・風習を町屋で学ぶ | 事業 内容 | 長崎の古い風習や文化を体験しながら、 当時の生活の様子（和菓子・郷土料理体験など）を学ぶ ⇒体験した小学生がゲストをもてなす （有料） |
| 主催者 | 町屋の所有者と1班 | | |
| 開催日 | 春夏秋冬 | | |
| 場 所 | 市内の町屋・心田庵ほか | | |
| 対 象 | 小学生以上 | | |

1班一②

| | | | |
|-----|------------------|----------|---|
| 事業名 | 木造電車で行く終点のその先には… | 事業 内容 | 木造電車を借り切り、車掌さんを募集 終点まで行ってそこから物語が始まる 町の案内は長崎弁で、路地裏を歩きながら文化財を探す（有料） |
| 主催者 | 路面電車の会と1班 | | |
| 開催日 | 随時 | | |
| 場 所 | 赤迫・石橋・蛍茶屋・正覚寺下 | | |
| 対 象 | 市民 | | |

1班一③

| | | | |
|-----|----------------------|----------|--|
| 事業名 | 大人の夏休み自由研究(マニアックツアー) | 事業 内容 | ①県庁～市役所 分水嶺ツアー ②銅座川・岩原川源流探し ③寺町ご本尊比較ツアー ④土蔵めぐり ⑤こて絵めぐり |
| 主催者 | こだわりを持った市民（団体） | | |
| 開催日 | 随時 | | |
| 場 所 | おのおの | | |
| 対 象 | 市民 | | |

2班

| | | | |
|-----|-----------|----------|---|
| 事業名 | まちのお宝探検隊 | 事業 内容 | ○校区内の文化財マップ作り ○こどもガイド育成 ○授業として取り組む ○毎年更新 ○文化財におもしろいキャッチフレーズをつける |
| 主催者 | 教育委員会・長崎市 | | |
| 開催日 | 年中 | | |
| 場 所 | 小学校区 | | |
| 対 象 | 小学生 | | |

3班

| | | | |
|-----|---------------|----------|--|
| 事業名 | 夏休み“長崎の宝物さがし” | 事業 内容 | 夏休みの自由研究に役立つように、子どもを対象とした“文化財さるく”を実施。関心をもった文化財のついての自由研究 現在を生きる子どもが過去にふれる 座学→まち歩き→レポート・気づき 説明は最小限に。子どもからの疑問にはしっかり答える。⇒人材の育成が必要 |
| 主催者 | そのときどきで誰でも | | |
| 開催日 | 7月下旬～8月末 | | |
| 場 所 | 市内全域 | | |
| 対 象 | 小学生 | | |

4班ー①

| | | | |
|-----|---------------|----------|---|
| 事業名 | “本物”を楽しむ大人の休日 | 事業 内容 | 複数の建物を線でつなぐ。 食・音楽・買い物とコラボ。 プレミアム感で知的好奇心を刺激。 和（建物）＋洋（音楽）のコラボ。 文化財の普段使い |
| 主催者 | | | |
| 開催日 | | | |
| 場 所 | | | |
| 対 象 | 社会人 | | |

4班ー②

| | | | |
|-----|------------------------------|----------|---|
| 事業名 | 子どもたちの子どもたちによる子どもたちのためのツアー企画 | 事業 内容 | 市内の小学生が修学旅行で訪れる小学生を受け入れるためのツアー企画を作る。 ツアー企画を作るために建物・人物・郷土芸能などを調べ、ゲームなどを取り入れたツアーを企画し、自分たちがガイドする。 |
| 主催者 | | | |
| 開催日 | | | |
| 場 所 | | | |
| 対 象 | 小学生（市内＋修学旅行） | | |

5班

| | | | |
|-----|-----------|----------|--|
| 事業名 | 体験楽習 | 事業 内容 | 風習・方言・遊びを通して長崎の文化を知る 長崎をより好きになってもらう |
| 主催者 | さるく | | |
| 開催日 | 土日の昼間 | | |
| 場 所 | | | |
| 対 象 | 小・中学生（＋親） | | |

6班一①

| | | | |
|-----|-------------|----------|---|
| 事業名 | 洋館シニア交流酒場 | 事業 内容 | 長崎と全国のシニア世代の交流拠点（情報交換・ネットワークづくり） 観光ガイドにないコアな情報発信 長崎の歌や踊りを皆で楽しむ場 長崎の食文化を楽しむ（地産地消）⇒地元店舗・企業支援 洋館の活用にはリタイア層のマンパワー活用 |
| 主催者 | 団塊世代の団体 | | |
| 開催日 | 通年 | | |
| 場 所 | 市内の洋館 | | |
| 対 象 | 長崎と全国のシニア世代 | | |

6班一②

| | | | |
|-----|----------------------|----------|--|
| 事業名 | 洋館誰でもカフェ | 事業 内容 | 文化財をいうロケーションを生かして、気軽に料理（スイーツ）ショップが開ける事業 文化財＋スイーツ 歴史的価値を知るきっかけにする QRコード（土産、スタンプ） |
| 主催者 | 料理自慢、手づくりお菓子 | | |
| 開催日 | 定時開催（昼間） | | |
| 場 所 | 東山手甲 13 番館 | | |
| 対 象 | 人気投票やコンテストを勝ち抜いた料理自慢 | | |

9 参加者の感想・気づき

◆市民側

- 文化財をテーマにグループのメンバーと繋がりができ、ありがたい気持ち。
- 人と人との繋がりが、テーマを形にしていく一歩になるのではないか。
- これからも今日の出会いを大切に、何か0から1を立ち上げられたら…。
- 指定された文化財のみを大切にしていた文化財課が、このような機会を設け、開かれた文化財課を創り、文化財の存在の理由を生かし、開かれた文化財を創ろうとする姿を知ることができ、大変うれしかった。
- 文化財という言葉は何か縁遠いものと思っていたが、もっと広い意味で考えると、自分の周囲にも楽しいもの・身近なものがある。それを発掘または活用して、面白い長崎市に発展させてほしいし、自分でも体験していきたい。
- 初対面でも心を合わせることができた。素晴らしかった。
- アイデアや意見が活発に交換でき、とても有意義な時間だった。
- 楽しかった。
- 文化財に親しんでもらいたい人が、子どもなのか、マニアなのか、それによって企画が違ってくる。「ターゲット」が大切だと思わせてくれた。
- 文化財はすごいもののイメージではなく、肌で触れる（体験する）もの・身近なものと感じた。宝物を教えてあげたい。
- まず一歩前に踏み出さないと、何も始まらない!! できることから実行。
- 人、物、金をどう工面するか。頭が痛いけど、知恵を出し合う。そのためには、情報を有効に。
- 思いを語り、共有し、形にするきっかけとなった
- 普段から文化財には関心があるが、その使い方・活用には課題があると感じていた。いろいろな立場の方と情報交換をすることにより、また違った視点から文化財について

考えることができた。

○子どもに対しての文化財教育は、皆さんがその必要性を感じていることが分かり、行政には、ぜひ今後、子どもの文化財教育に取り組んでほしい。

○文化財という堅めのテーマだったが、複数で話し合いながら作業を進めることで、おもしろい結果になった。

○幅広い年齢層の人に目を向けることが大切。小学生など吸収力が強いので、若いときに文化財への理解を深めてもらう工夫をするべき。PRの方法は年齢別に工夫。

○観光客の増加には、食や遊びへの好奇心を満たすことも大切。

○文化財は幅広い。

○長崎のことをこれだけ考えたのは初体験。好きになったかも。

○新しいストーリーを作る。

○文化財と人が結びつく方法は、地域・親子・学校・行政がよく連携して。

○三人寄れば文殊の知恵と言うが、いろいろな立場の人の意見を聞いたり、話し合ったりすることで、新しい発見があったり、アイデアが出てきたりして面白かった。

○自分たちの活動+「文化財」の青写真が構築された。

○建物（ハード）+ソフトを注ぎ、活きた文化財によみがえると感じた。

○皆さんの「文化財」に関する取扱いや価値観が、自由だったことに驚いた。「文化財」というと、“保存・管理”という側面が中心的に語られ、それをどう活かすかという話になりづらい中、皆さんのそうした反応はとても新鮮だった。

◆行政側

○たいへん面白く、勉強になった。

○今回のメンバーが核となり、できそうなものから企画案を本当に実現してみてもは。

○テーマを変えたり、もっと具体的なもので開催してもらいたい。

○点としてではなく面として見る視点が大事。

○子どもの頃から文化財に親しむことが大事。

○身近なものから探すということ。

○発送は無限大。皆さんの知恵を出しあうと、可能性が広がる。

○今日話したことが夢物語で終わらないように、各々で実行に移せることを期待する。

○関心を持ったきっかけを聞くことができ、とても良かった。

○マニアックな部分へのアプローチについて、今後考えていきたい。

○職場での会議より、活発な自由意見が多く、とても参考になった。

○1人で考えても、1以上にはならないが、 $1+1+1+1+1+1=6$ ではなく、10や100以上にもなる可能性を感じた。

○年齢層、職業が異なるにもかかわらず、一つの企画がまとまる。

○子どもを対象としても企画は異なったものが出てくる。

○最初は難しいテーマだと思ったが、グループの皆さんの積極的な意見やアイデアが、とても参考になり助けられた。

○自分も楽しむという視点で考えると、解決策が見えてきそうな気がする。

○文化財という堅苦しいと感じる言葉のイメージを一新することが必要。

- 市民全体で、自分のこととして、身近に感じられるようなPRが重要。
- 市役所の中だけでの発想ではなく、市民の方とともにやっていくことで、実現の可能性が高まるのではないか。
- ずっと継承されたこと（歴史・文化財）＋今＝未来につないでいること、と感ずることができた。
- 一人一人いろいろな意見や思い・感情を持っている。
- 文化財は過去と今をつなぐもの。上手にいかして次世代へ引き継がないと！
- 文化財の大切さを伝えることの大切さ、難しさを感じた。
- 身近な、生活に溶け込んでいる文化財を見直したい。
- 子どもへのアプローチが有効。
- 長崎のすばらしさ、良さをもっと知ってほしいという気持ちを、皆さんが持っていることが分かり、非常に感激した。
- やってよかった。
- 文化財には制約が多いため、それを前提に物事を考えがちだったが、その制約を考えずに、一度文化財を考えてみる機会になった。
- 実際に携わっている市民団体の方々の意見・見方を知ることができたのは、とても参考になった。今後に生かしたい。
- 文化財はカッコイイ！ いろいろ見てまわりたいと思った。
- 「文化財」という名称を使わない発想、おもしろい。
- 自分の意見に固執してしまうところで、班の方に迷惑をかけたかもしれない。反省。
- グループでの意見を企画書として作り上げることの大変さが学べた。
- 自分の意見をなかなか上手く言葉にすることができず、もどかしい思いがした。上手に話すのは難しい。
- 小さなアイデアはたくさん出る。それを選別して、組み立てるところが難しい。
- 「実現性」は重要。
- 潜在的ニーズをいかにつなげられるかがポイント。
- 一人で一つの担当、企画を考えていると、長く時間がかかってしまうが、今日は皆で話して3時間半で2つも企画ができた。
- フリートークを重ねていると、なぜだかわからないが、胸のつかえのようなものが取れて、精神衛生的にも良かった。
- ワイワイ話すことは大事なのだと、再確認した。

10 当日の様子

会場の様子



担当課の説明

